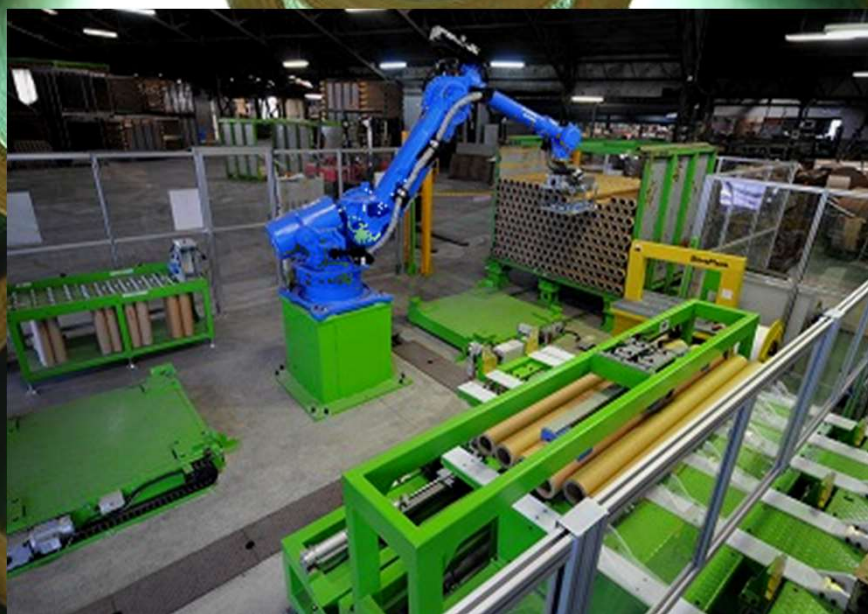


# 2021年度 環境経営レポート



佐賀板紙株式会社

Saga Paperboard Co.,Ltd

<http://www.sagaita.co.jp/>

活動期間 2021年4月～2022年3月

2022年6月23日

## もくじ

	ページ
1.ご挨拶	2
2.組織の概要	3
3.環境経営方針	4
4.過去3年間の環境負荷実績と環境経営目標	5～6
5.主要な環境経営活動計画	7
6.環境経営目標の達成状況と評価	8
7.環境経営活動計画の取り組み結果とその評価	9～10
8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 ならびに違反訴訟等の有無	10
9.代表者による全体の評価と見直し・指示	11

## 1. ご挨拶

当社の歴史は、大正5年(1916年)現在地に肥前板紙株式会社が設立されたことに始まります。

以来、幾多の社会環境や世界経済の変化を乗り越え、また多様化するお客さまのニーズにお応えする製品を開発し、資源の乏しい我が国においてリサイクル可能な紙製品を社会に提供して参りました。

佐賀板紙は紙加工業界のパイオニアとして長年培ってきた貼合技術をもとに王子グループ内での一体事業として紙の持つ可能性を貼合板紙、紙管、紙アングルの分野で追求し続けてきました。我々は、紙加工を通して紙の特性を社会に役立たせることが佐賀板紙の使命と考えております。

当社は2013年6月、持続可能な循環型社会の実現に積極的かつ継続的に取り組むためにエコアクション21を導入致しました。

佐賀板紙株式会社

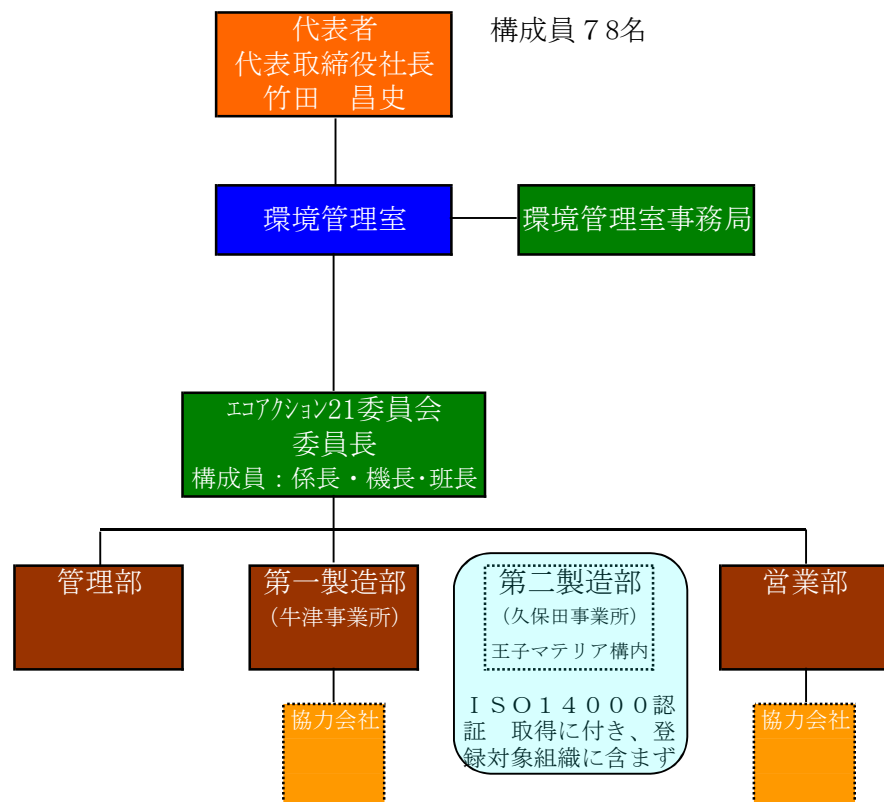
代表取締役社長 竹田 昌史

## 2. 組織の概要

1. 事業者名 佐賀板紙株式会社
- 代表者氏名 代表取締役社長 竹田 昌史
2. 所在地（対象組織） 牛津事業所 〒849-0302 佐賀県小城市牛津町柿樋瀬1140番地
- ISO14000認証・取得済み 〒849-0204 佐賀県佐賀市久保田町1番地  
（久保田事業所） （王子マテリア株式会社 佐賀工場内）
3. 環境管理責任者 安全衛生・環境管理室長 小林 均  
担当者氏名 開発技術室長 小林 均  
連絡先 TEL:0952-66-1231  
FAX:0952-66-1475  
E-mail:kobayashi282213@oji-gr.com  
<http://www.sagaita.co.jp>
4. 事業の概要（対象活動） 製紙用紙管、一般紙管、紙アングル、紙紐、製本用芯材の製造販売
5. 事業の規模 事業年度:4月～翌年3月

（単位）	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
売上高（百万円）	1,474	1,592	1,470	1,226	1,378
従業員（人）	27	28	28	27	27
敷地面積（㎡）	44,061	44,061	44,061	44,061	44,061

### 6. 対象組織



\*2022年3月末現在

### 3. 環境経営方針

佐賀板紙株式会社は、リサイクル可能な紙加工製品を社会に提供することで、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。

- 1、製品の開発・生産および流通の各段階において、常に環境への影響を考え、環境負荷の少ない紙加工製品を社会に提供します。
- 2、企業活動に関わる法規制を常に把握し遵守します。
- 3、次の事項を省資源・省エネルギーの重点的なテーマとして、環境保全活動を推進します。
  - (1) エネルギー使用量を抑え、二酸化炭素の排出量を削減
  - (2) 廃棄物排出量削減
  - (3) 水使用量（総排水量）削減
  - (4) 原紙歩留まりの向上
  - (5) 化学物質は適正に使用
  - (6) グリーン購入の促進
  - (7) 地域貢献活動の推進
- 4、環境教育・訓練の実施により、従業員はもとより関連会社にも周知徹底し、全員参加の環境保全活動を推進します。
- 5、環境活動レポートを作成し、環境取り組みの状況を公表します。

2017年6月28日  
佐賀板紙株式会社  
代表取締役社長 竹田 昌史



## 4-1. 過去3年間の環境負荷実績

\*紙加工業においては、生産量は重量で捉えるのが一般的である。環境負荷項目の総量は生産重量と密接な関係があるため、全ての目標は仕掛り品も含めた延べ生産高重量原単位で評価することが妥当と考える。ただし、原紙歩留まりについては製品生産高で求めた。

### 4-1 主要な環境負荷の実績把握

\*使用電力の二酸化炭素排出量への換算は、2021年1月7日環境省・経済産業省公表、排出係数0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用して求めた。

環境目標項目	原単位管理実施項目	単位	該当職場	2020年度 基準年	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績
温室効果ガス 排出量 原単位	温室効果ガス排出量原単位	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	194,876	220,063	194,876	204,619
		二酸化炭素排出量の原単位削減	kg-CO <sub>2</sub> /T	29.840	28.758	29.840	28.948
	牛津事業所使用電力	電力	kWh	476,964	524,960	476,964	491,501
		電力使用原単位削減	kWh/T	73.033	68.602	73.033	69.533
	構内運搬燃料	軽油	L	7,020	8,080	7,020	6,260
		軽油使用原単位削減	L/T	1.075	1.056	1.075	0.886
	冬季原紙加温用ボイラー燃料	LPG	kg	3,200	4,600	3,200	5,200
		LPG使用原単位削減	kg/T	0.490	0.601	0.490	0.736
社有車	ガソリン	L	576	1,202	576	874	
	ガソリン使用原単位削減	L/T	0.088	0.157	0.088	0.124	
廃棄物排出量原単位	廃棄物	t	26.3	33.3	26.3	30.6	
	廃棄物使用原単位削減	t/T	0.004	0.004	0.004	0.004	
水使用量原単位	水	m <sup>3</sup>	1,152	1,197	1,152	1,141	
	水使用原単位削減	m <sup>3</sup> /T	0.176	0.156	0.176	0.161	
原紙使用歩留まり	原紙	t	6,017	6,939	6,017	6,192	
	原紙歩留まり	%	85.1	86.2	85.1	85.8	

単位Tは延べ生産高を表している。

## 4-2. 環境経営目標

弊社における2020年度の環境負荷実績を把握し、2020年度を基準年として、2021年度から2023年度の目標を次のとおり定め活動を開始した。

原紙歩留りは0.5%向上、他は0.1%削減を目標とした。

環境目標項目	原単位管理実施項目	単位	2020年 基準(実績)	2021年 目標	2022年 目標	2023年 目標	
温室効果ガス排出量原単位	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	194,876	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%	
	二酸化炭素排出量の原単位削減	kg-CO <sub>2</sub> /T	29.840	29.810	29.780	29.750	
温室効果ガス排出量原単位	牛津事業所使用電力	電力	kWh	476,964	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%
		電力使用原単位削減	kWh/T	73.033	72.960	72.887	72.814
	構内運搬燃料	軽油	L	7,020	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%
		軽油使用原単位削減	L/T	1.075	1.074	1.073	1.072
	冬季原紙加温用ボイラー	LPG	kg	3,200	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%
		LPG使用原単位削減	kg/T	0.490	0.489	0.489	0.489
	社有車	ガソリン	L	576	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%
		ガソリン使用原単位削減	L/T	0.088	0.088	0.088	0.088
廃棄物排出量原単位	廃棄物	t	26.3	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%	
	廃棄物使用原単位削減	t/T	0.004021	0.004017	0.004013	0.004009	
水使用量原単位	水	m <sup>3</sup>	1,152	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%	
	水使用原単位削減	m <sup>3</sup> /T	0.176	0.176	0.176	0.176	
原紙使用歩留まり	原紙	t	6,017	+0.5%	+0.75%	+1.0%	
	原紙歩留まり	%	85.15	85.57	85.79	86.00	
古紙配合紙100%使用継続				遵守			
使用化学物質の把握と適正使用				SDS、新規使用原材料安全シート完全取得、リスクマネジメント完全実施			
グリーン購入の推進		品目数		4品目	4品目	4品目	
地域貢献活動の推進		回数		4回/年	4回/年	4回/年	

\* 使用電力の二酸化炭素排出量への換算は、2021年1月7日環境省・経済産業省公表、排出係数0.347kg-CO<sub>2</sub>/KWhを使用して求めた。

## 5. 2021年度における主な環境経営活動計画

原単位管理実施項目	統括 責任者	担当部署	活動項目
<b>1.二酸化炭素排出量原単位を2020年度比0.1%削減</b>  電気使用量削減 原単位を2020年度比0.1%削減  リフト軽油使用量削減 原単位を2020年度比0.1%削減  ボイラーLPG使用量削減 原単位を2020年度比0.1%削減  社有車ガソリン使用量削減 原単位を2020年度比0.1%削減	環境 管理 室長	営業 管理 製造 営業 製造  営業・製造  製造  営業 営業	1 空調の適温化(冷房28度程度、暖房20度程度)を徹底する 2 パソコンの省エネ設定を徹底する 3 エアコンのフィルター掃除回数を増やす 4 不要な照明の消灯 5 生産設備(コンプレッサー)の効率化  1 エコ運転の実施 2 素材、製品の再移動を少なくする  1 ボイラー運転時間の標準化  1 エコ運転の実施 2 社有車(ハイブリッド)の有効利用
<b>2.廃棄物排出量原単位を2020年度比0.1%削減</b>  廃棄物排出量削減	環境 管理 室長	全社 製造 製造	1 分別強化でリサイクル(古紙)推進 2 素材運搬時のラッピングフィルムの減量 3 糊ポット皮膜の発生抑制
<b>3.水使用原単位を2020年度比0.1%削減</b>  水使用量削減	環境 管理 室長	全社 製造	1 節水の周知徹底 2 漏水の定期点検
<b>4.原紙使用歩留まりを2020年度比0.5%向上</b>  原紙歩留まりを向上させる	環境 管理 室長	製造 製造 製造	1 素材寸法を適正化する 2 段取り回数を減らす(レポート品の素材在庫を増やす) 3 指定本数以上を生産しない(1本たりとも)
<b>5.古紙配合紙100%使用継続</b>	環境 管理 室長	管理	新規原紙の購入に当たっては、証明書を手入する
<b>6.使用化学物質の把握と適正使用</b>	環境 管理 室長	管理・製造	1 SDS、新規使用原材料安全シート取得、リスクマネジメント実施
<b>7.グリーン購入の推進</b>	部 長	管理	1 グリーン相当事務用品の調査購入
<b>8.地域貢献活動の推進</b>	室 長	全社	1 敷地周辺道路のごみ拾い実施



## 6. 環境経営目標の達成状況と評価

エコアクション21の運用を行った、2021年4月から2022年3月までの1年間の目標に対する実績は次の通りであった。

\* 使用電力の二酸化炭素排出量への換算は、2021年1月7日環境省・経済産業省公表、排出係数0.347kg-CO<sub>2</sub>/KWhを使用して求めた。

環境目標項目	原単位管理 実施項目	区分	単位	2020年度 (基準年度)	2021年度		目標達成率	評価
				実績 上段:使用量実績 下段:原単位	原単位目標	実績 上段:使用量実績 下段:原単位		
温室効果ガス排出量 原単位0.1%削減	CO <sub>2</sub>	排出量	kg-CO <sub>2</sub>	194,876	▲0.1%	204,619	103	○
		原単位	kg-CO <sub>2</sub> /T	29.840	29.810	28.948		
温室効果ガス 排出量削減項目	電力	使用量	kWh	476,964	▲0.1%	491,501	105	○
		原単位	kWh/T	73.033	72.960	69.533		
	軽油	使用量	L	7,020	▲0.1%	6,260	118	○
		原単位	L/T	1.075	1.074	0.886		
	LPG	使用量	L	3,200	▲0.1%	5,200	50	△
		原単位	L/T	0.490	0.489	0.736		
ガソリン	使用量	L	576	▲0.1%	874	60	△	
	原単位	L/T	0.088	0.088	0.124			
廃棄物排出量 原単位0.1%削減	産業廃棄物	使用量	t	26.3	▲0.1%	30.64	92	△
		原単位	L/T	0.0040	0.0040	0.0043		
水使用量原単位0.1%削減	水	使用量	m <sup>3</sup>	1,152	▲0.1%	1,141	108	○
		原単位	m <sup>3</sup> /T	0.176	0.176	0.161		
原紙使用歩留まり 0.1%向上	原紙	使用量	t	6,017	0.005	6,192	100	○
		原紙歩留り	%	85.15	85.57	85.82		
	製品生産高		t	5,123		5,314		
	延べ生産高 (含む仕掛品)		t	6,531		7,069		
古紙配合紙100%使用継続				新規原紙の購入に当っては、証明書を手りする				新規購入原紙なし。
使用化学物質の把握と適正使用				SDS、新規使用原材料安全シート完全取得、リスクマネジメント完全実施				○
環境法令等の遵守				環境カレンダーに基づき、自主測定・各種届出実施				○
グリーン購入の推進		品目数	4品目	トレットペーパー、再生インテックス、用箋挟み、賞状額、乾電池、Qスタンパー、修正テープ購入。				
地域貢献活動の推進		回数	4回/年	5月、10月、11月、3月計4回実施した。総勢57名。				

\* 原単位は工程が一次、二次工程等があり全てでエネルギーを使用するので対延べ生産高歩留まりは製品生産高で求めた。

評価	よく出来た	◎	120%以上
	ほぼ出来た	○	達成
	努力を要す	△	未達

社用車燃料については新型コロナウイルス感染症拡大により控えていた営業活動が回復してきたことで使用量が増加し目標未達となった。冬季加温燃料に関しても少しずつ受注が回復してきたことによりボイラー稼働日数が増えたことで目標未達となった。電力使用量、構内運搬燃料については受注回復に伴い、電力使用量は増加となったがマシンレイアウトの見直し・改善を行い横持ち運搬の削減やリーチリフト導入により目標達成することが出来た。

## 7. 環境経営活動計画の取組結果とその評価(1)

### 7. 1 二酸化炭素排出量の削減

目標原単位に対して達成率は103%であった。

電力使用量は生産量も増加し、製造工程で乾燥機を使用する受注が多かったことや、夏季のスポットクーラーの使用や冬季の暖房器具使用により使用量は増加となったが原単位では目標達成となった。

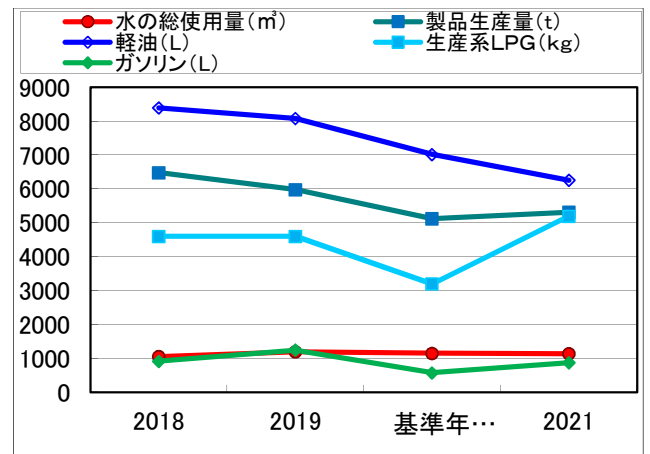
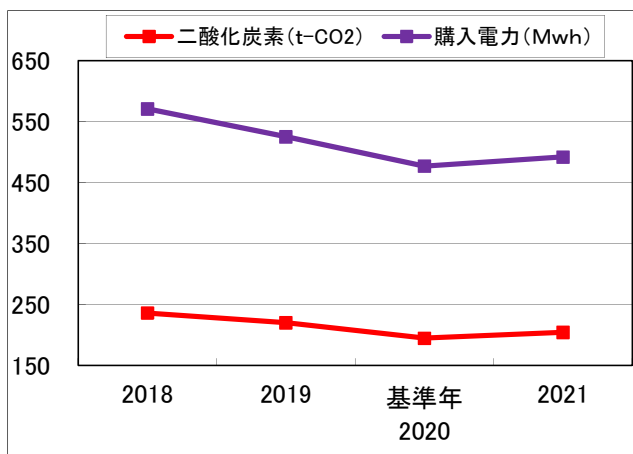
構内運搬燃料についてはマシンレイアウトの見直し・改善を行ったことで横持ち運搬の削減に繋がった。また、フォークリフトをリーチリフトに変更したことも使用量の削減に繋がり目標達成となった。

冬季原紙加温燃料(ボイラー燃料)については加温が必要なアングルの受注が多かったことでボイラーの稼働が増加し目標を達成出来なかった。

社有車燃料に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って自粛していた営業活動が少しずつ戻ってきたことと、引継ぎ業務活動で社有車の使用が増えたことで使用量増となり目標を達成出来なかった。

原単位では目標達成となったが構内運搬燃料以外については使用量は増加した結果となった。

今後も従業員一人一人が目標達成に対する意識を高めた行動をとり、少しでも使用量削減に繋がる努力をしていく。

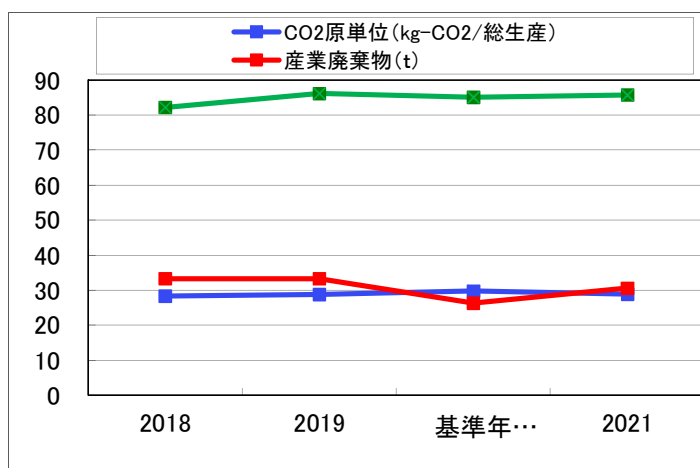


### 7. 2 廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量は目標に対して92%であった。

新型コロナウイルス感染症により落ち込んでいた受注が少しずつ回復傾向となり、生産量も増加したことで紙屑(ガムテープ屑等)の処分量が増加となった。

また、新型コロナウイルス感染症対策によるアルコール消毒時に使用するウェス等の廃プラ処分量も増えたことで目標を達成出来なかった。



### 7. 3 水使用量の削減

水使用量は目標に対して108%であった。

新型コロナウイルス感染症対策として手洗い回数が増えたが各個人の節水に対する意識が高まったことで目標達成となった。

今後も各個人がこまめな節水を心掛け、使用量削減に努める。

## 7. 環境経営活動計画の取組結果とその評価(2)

### 7. 4 原紙使用歩留まりの向上

原紙構成、素材寸法の見直し、集約生産による段取り換え回数減に取組みクリアした。

### 7. 5 古紙配合紙100%使用を継続

新規に使用を始めた原紙はなかった。

### 7. 6 使用化学物質の把握と適正使用

含有する物質に関する証明書」(王子HDシステム)をメーカーより取得。

### 7. 7 グリーン購入の推進

トレットペーパー、再生インデックス、用箋挟み、賞状額、乾電池、Qスタンプ、修正テープを購入した。

### 7. 8 地域貢献活動の推進

5月11名、10月16名、11月15名、3月15名の参加人員にて工場より牛津駅、江津交差点までの清掃活動を実施。



会社周辺での清掃活動

### 7. 9 次年度へ向けて

電力使用量については、引き続きデマンド監視による電力使用量の管理を徹底し不要設備、照明器具の確実な停止、冷暖房機具使用時の適切な温度管理を行い、一人一人が節電への意識を高めて使用量削減に努める。

構内運搬燃料については素材、製品保管場所、運搬ルートの見直しを行い、横持ち運搬を極力減らすこと、社用車営業車燃料についてはエコドライブ運転の徹底で更なる使用量削減に取り組んでいく。

## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果ならびに違反、訴訟の有無

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

## 9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

### 9.1 環境活動の取組結果の全体評価

「環境関連法規等の取りまとめ／遵守状況の確認及び評価の結果」「2021年環境活動計画の実施状況と評価」では大きな問題は無く良好であるが、「環境目標の達成状況と評価」では、一部未達が見られる。前年がコロナ影響で生産高が低かったことや営業活動が行えなかった影響もあり、定常化した時の推移を見る必要がある。

関係会社への指導は適切に行われているが、目標達成には関係会社の協力が不可欠であり、今後はさらに環境意識の向上を図る必要がある。

### 9.2 環境システムが有効に機能しているか

設定目標達成に向け、日々確実に取り組みを行った。

各担当者毎に設定された具体的目標を確認し、担当者が責任を持って、関係者全員の行動を指導した。

### 9.3 見直し結果

コロナからの定常化の状況を見て、数年後見直しが必要か判断する。

エコアクション導入後10年の節目となる来年は、再度各種文書等の見直しを行い、新たな10年に向けて全般的に見直しを行いたい。

本年については、環境経営方針、実施体制はこのまま継続する。